

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1270101155		
法人名	(株) 千葉薬品		
事業所名	グループホーム ヤックス都の杜		
所在地	〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1283番地 (電 話) 043-232-6204		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	26人	常勤 15人, 非常勤 11人,	常勤換算19.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000～50,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費、管理費32,000円	
敷 金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (30万円)	有りの場合 償却の有無	有 (30カ月)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,700 円			

(4) 利用者の概要(平成21年1月31日現在)

利用者人数	13 名	男性	2 名	女性	11 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	4 名	要介護4	3 名			
要介護5	4 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.3 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団榎会 千城台クリニック 旭ヶ丘第一歯科クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームには、お互いに家族のようにやっていきたいという思いを込めた理念があり、管理者の真摯な取り組みと職員の家族的で細やかなケアの実践は、家族の厚い信頼を得ている。廊下には行事などの写真が多く掲げてあり、利用者がそれを見て楽しみ団らんの話題にする等、ホーム全体に温かさを感じる。建物は古く多少使いづらな面があるが、利用者家族等アンケートではその点の不満はなく、むしろ「笑顔で親身に接してくれる」「本人の顔が明るくなった」等、感謝の気持ちがたくさん寄せられている。当ホームは、平成21年4月より経営母体が新会社に移行するが、今後も温かみがあり質の高いサービスを提供する事業所運営を期待したい。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果を全体会議で確認し改善検討してきた。前回の改善課題は、①地域との交流の充実、②市町村との連携強化、③職員研修の充実である。①②については改善されたが、③は職員体制が整い今後実施する予定である。研修の機会を増やすように引き続き努力を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は二人の管理者が職員と相談しながら作成し、全体会議で内容を確認した。自己評価票の小項目を職員が目を通すことで、ホームに求められている意義や内容を理解させ、職員の意識を高めることに役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2回、家族会の後に実施した。自治会や地域包括支援センター等にも声をかけたが、今年度の参加者は利用者家族だけであった。事業所の活動報告や家族会での課題を意見交換し、サービス向上に役立っている。21年度は関係者に幅広く参加を呼びかける意向であり、積極的に働きかけ十分な意見交換が出来るように期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	9月と1月に家族会を開催し、家族だけで気軽に話し合ってもらった。その内容をもとに運営推進会議の中で意見交換し、改善に役立っている。また、苦情相談窓口はホーム、行政の他、家族代表2名にも担当してもらっているが、日常的には家族の面会時にご意見をいただき、随時意見交換している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	早くから地域の自治会に加入し、お祭りで御神輿を庭内に乗り入れてもらったり、ホームの盆踊り・夕涼み会に参加してもらっている。また、ヘルパー実習生や高校生の実習受け入れや、地域ボランティアの行事への参加もあり、地域との交流を大切にしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームの理念は「温かく家庭的な雰囲気の中で、誰もが自由に、自分らしく、安心して暮らせる生活を支援します」である。一方的な介護ではなく、お互いに家族のようにやっていきたいという思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニット・休憩室に掲示している。入社時や毎月の全体会議、日々の申し送り時等で理念の共有化をはかり、言葉だけでなく日常的にどのような行動をするのが良いのかを話し合い、理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	早くから地域の自治会に加入し、お祭りで御神輿を庭内に乗り入れてもらったり、ホームの盆踊り・夕涼み会に参加してもらっている。また、ヘルパー実習生や高校生の実習受け入れや、地域ボランティアの行事への参加もあり、地域との交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は二人の管理者が職員と相談し作成した。自己評価票の小項目を職員が見ることで、ホームに求められている意義を理解させている。評価結果は全体会議で確認するとともに、家族への送付や廊下に掲示し、訪れた人がいつでも閲覧出来るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回実施した。自治会や地域包括支援センター等にも声をかけたが、参加者は利用者家族だけであった。事業所の活動報告や家族会での課題を意見交換し、サービス向上に役立てている。21年度は幅広い参加を呼びかける意向である。	○	運営推進会議は家族会の後行われ、出席メンバーが限られている。年間スケジュールをあらかじめ設定するなどして、自治会や地域包括支援センター、行政等の方の参加を積極的に働きかけ、幅広い意見交換をできるように期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価結果や転倒事故の報告・相談、行政からの情報に対する問い合わせ等、行政関係者と随時、報告や相談など連絡を取っている。また、社会福祉協議会主催の新任者研修などに参加し、サービスの質の向上に結びつけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者毎に担当職員を決め、ケース記録等を辿りながら健康状態や問題点、サービスの提供状況などを取りまとめ、請求書送付時に行事報告・予定とともに同封し、毎月家族に報告している。また、面会時や必要時に電話連絡するなど、こまめに報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	9月と1月に家族会を開催し、家族だけで気軽に話し合ってもらった。その内容をもとに運営推進会議の中で意見交換し、改善に役立てている。また、日常的には電話や家族の面会時にご意見をいただき、随時意見交換している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着化を図るため、パート職員の嘱託社員（日給・月給制）への待遇改善や、メンタル面のフォローなど働きやすい環境づくりを行っている。職員からも意見が言いやすく、働きやすいとの声が聞かれる。職員が退職した時は、利用者の安全と精神的安定に気を配ってケアし職員間でフォローしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会の確保や働きながらの資格取得等に理解があり、勤務シフトにより参加しやすく配慮している。参加者以外には伝達研修の他、研修報告書を休憩室におき理解を深めるようにしている。休憩室には介護に役立つ参考図書もおき、スキル向上に役立てている。	○	法人は人材育成に理解があるが、これまでは職員不足から研修に参加出来る機会が少なかった。職員体制が整ったのを機に、今後研修の機会を増やすように引き続き努力を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回、市のグループホーム連絡会に管理者が出席し、ネットワーク作りを積極的に行っている。連絡会の世話人として交流会を企画し、仕事上の悩み、行政への要望の取りまとめ、勉強会等を実施しており、職員を研修会・講演会に参加させて、サービスの質の向上に役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の事前面接時に管理者と話してもらったり、入居前に本人や家族に遊びに来てもらうなどして、他の利用者や職員と一緒に過ごし雰囲気に馴染んでもらうように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、掃除の手伝いなど利用者が日常的に出来ることは職員と一緒にやっている。またレク活動を通じて利用者が出来ることや得意だった事を引き出すようにしたり、月々の行事で参考になることを教えてもらいながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族とよく話し、会話の端々に見え隠れする思いの把握に努めている。自分の意向を表すことが困難な方には、日常の表情や仕草や行動の中から感じ取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回面談時や入居後の面会時などで本人や家族との話し合いの中からニーズを把握し、また朝夕引き継ぎ時の申し送りや会議などで、個々の課題を話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほかに利用者の状態に変化があった時はその都度、見直しを行っている。見直しをするときは家族に利用者の状況を伝え、新たな介護計画に変更する理由を連絡している。状態により主治医や看護師等に相談したり、意見を頂いたりして、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の必要に応じて介護用品や薬剤の購入などの支援をしている。また他部門で行っているヘルパー2級講座の実習生や高校生の実習の受け入れを行っており、利用者がフレッシュな若人とのふれあう場にもなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関を使うか利用者のかかりつけ医を使うかを本人や家族と相談し決めている。かかりつけ医への受診は基本的には家族対応であるが、家族の都合がつかないときや緊急時は職員が同行している。受診結果は家族に連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師や医療機関との連携や看取りなどについて定めた「重度化した場合における対応に係る指針」を平成18年5月に作成し、入居時に説明、同意を得ていたが、平成20年10月に同指針に同意欄を設け、全員から改めて同意の署名捺印を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保の徹底に関しては、契約書や運営規定に明文化され、職員も共通認識を持っている。個人情報の記録などは、定められた場所に保管し持ち出しを禁止している。日頃から言葉遣いや対応には気をつけ、プライバシーを大切にしたいケアをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決まっているが、一人ひとりの希望に沿った過ごし方を支援している。将棋や書道、折り紙などのレク活動する方や状態が毎日変化する方、朝夕で波がある方などよく観察し、思いが充たされるよう一人ひとり優しく受け止め対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はテーブル拭きや盛り付け、食器洗いなど出来る能力に合わせて、職員と一緒にやっている。暮れには野菜の下ごしらえを皆で行い、おせち料理で正月をお祝いした。食事時はテレビを消して、利用者や職員との会話を交えながら楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を基本にしている。利用者の状況によっては時間や順番を変更したりして、楽しんで入浴してもらえるように工夫している。入浴を好まない方には、雰囲気作りや誘いかけなどして、できるだけ入浴してもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の片付けや、洗濯物たたみなどの出来ることが役割に感じてもらえる支援をしている。初詣や花見、夏祭りなど楽しみな年間行事は、単調になりがちな日々を活性化させ、気晴らしにもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天の時は通常、午前中に外気浴や歩行支援を兼ねて散歩している。近くのスーパーやホームセンター、コンビニへの買い物時には、希望により利用者と同行するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関には鍵をかけていないが、周囲は交通量も多く、またトラックなどの業務車両が多く走り危険が伴うため、家族の要望もあり門扉はいつも施錠している。玄関は夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回必ず行っており、近隣にも災害発生時の際の協力を依頼している。夜間については、夜勤者2人での緊急時に備えて実際の動き方を想定し、どう避難したら良いかを消防署と相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、食事摂取管理表で毎食毎にチェックしている。利用者の健康状態に応じてカロリー制限や水分の調整をしたり、自力での食事が困難な方には介助をするなどして、栄養バランスや水分が確保できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者の折り紙やぬり絵の作品が展示され、廊下には壁面いっぱいに、遠足や夏祭りなどの笑顔の写真がコメント付きで掲示されて、和やかな雰囲気を醸し出している。廊下や居間などに臭いがこもらないように、空気の入替えや消臭剤を用いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ、使い慣れた箆笥や愛用の小物類、絵画や写真、記念品などが置かれ落ち着いて暮せる工夫がされている。また仏壇を持ち込まれる方もあり、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。